

「古田小学校の 古田棒踊・古田獅子舞 伝承活動の取組」

1 学校名

西之表市立古田小学校

2 学年・人数

- (1) 古田 棒 踊：小学校 3～6 年（計 12 人）
- (2) 古田獅子舞：小学校 3・4 年男子（子猿：計 2 人）

3 日時・場所

- (1) 練習の日時・場所
 - ア 古田 棒 踊：9 月（古田小学校体育館・古田校区グラウンド）
 - イ 古田獅子舞：10・11 月（古田中央公民館）
- (2) 発表の日時・場所
 - ア 古田 棒 踊
 - 平成 30 年 9 月 16 日（日）古田小・校区合同大運動会（校区グラウンド）
 - 平成 30 年 10 月 21 日（日）願成就（古田豊受神社）
 - 平成 30 年 11 月 25 日（日）市芸能フェスティバル（西之表市民体育館）
 - イ 古田獅子舞
 - 平成 30 年 10 月 21 日（日）願成就（古田豊受神社）
 - 平成 30 年 11 月 25 日（日）市芸能フェスティバル（西之表市民体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能・伝統行事について

- (1) 名称
 - ア 古田 棒 踊（ふるたぼうおどり）
 - イ 古田獅子舞（ふるたししまい）
- (2) 由来
 - ア 古田 棒 踊
 - 大正 10 年に日置郡より安城に移住し、その後、古田に転住された上妻次郎氏が、当時の青年会長（上妻静馬氏）に伝えたことが始まり。その後、古田豊受神社の願成就で奉納されてきた。
 - イ 古田獅子舞
 - 大分県から椎茸栽培のため古田に移住してきた川野幸太郎氏と石井又蔵氏が古田の若者に教え、大正 3 年に、大正天皇御即位記念として古田豊受神社に奉納して以来、願成就に奉納されてきた。
- (3) 構成等
 - ア 古田 棒 踊
 - 鎌 2 人，棒 4 人の 6 人 1 組で踊る。入場→棒突き→本踊り（2 回）→退場の 4 部構成である。保存会の方の歌に合わせ、約 150cm の棒と約 70cm の鎌を打ち合う勇壮さ、前後左右に巧みに動くスピード感が特徴的である。
 - イ 古田獅子舞
 - 獅子・子猿（各 2 人），天狗・大太鼓・小太鼓（各 1 人），笛（10 人前後）で舞を披露する。子猿は、小学 3・4 年生が、獅子・天狗・大太鼓・小太鼓は、青壮年が担う。獅子と天狗が激しく闘い、「ホース」の掛け声を発し気合いを

入れ、緊迫感に包まれる。子猿は、獅子・天狗の動作を真似、時に猿同士で争い、舞の道化役を演じる。

5 保存会や地域との連携の具体

(1) 古田 棒踊

小学校・校区合同大運動会での披露に向け、棒踊り保存会の方々に指導を仰ぐ。また、運動会・願成就・芸能フェスティバル前日には、小学生・中学生・高校生が会し、保存会の方々の指導で踊りを合わす。

(2) 古田獅子舞

願成就前の3週間、芸能フェスティバル前の1週間、保存会の練習に参加し、子猿役の児童は指導を仰ぐ。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

- (1) 棒踊りに初めて参加する3年生は、保存会の方々や、上級生にも教えてもらいながら練習する。また、願成就では中学生・高校生や地域の大人と一緒に踊るため、自分たちも継承していく担い手としての意識を自然ともつ。
- (2) 3年生になれば棒踊りに参加できたり、獅子舞の子猿を担ったりと、目標をもたせることができ、学級経営・学校経営にも反映させている。
- (3) 各発表前の練習や本番の児童の取り組む様子を、「学校だより」やブログを通して積極的に広報している。

7 取組の様子



棒踊り：練習



獅子舞：練習



棒踊り：願成就



獅子舞：願成就

8 参加児童・保護者・保存会・教員の感想・意見

- ・ やっと、踊れるようになって嬉しかった。中学生になっても踊りたい。(児童)
- ・ 大勢の人前で披露することに我が子の成長を感じる。また、地域とのつながり、古田のよさをいつまでももってほしい。(保護者)
- ・ 全員が、当たり前のように参加してくれることが嬉しい。この伝統を受け継ぎ、後世につないでもらいたい。(保存会)
- ・ 児童や地域の方々と一緒に踊ることで、生涯の宝物になる。(教員)